

## 021. カンボジアにおける平地乾燥常緑林・落葉林の成立環境：地形・土壌・水分状態を中心に

大貫靖浩（森林総合研）・伊藤江利子（森林総合研）・  
Keth Samkol・Tith Bora・  
Chann Sophal（カンボジア森林野生生物研究所）・  
壁谷直記（森林総合研）

### Yasuhiro OHNUKI, Eriko ITO, Keth Samkol, Tith Bora, Chann Sophal and Naoki KABEYA: Site environments of plain dry evergreen forests and plain dry deciduous forests in Cambodia: on topography, soil and water condition

カンボジア・メコン川の西岸、東岸にそれぞれ分布する平地乾燥常緑林、平地乾燥落葉林の成立を規定する立地環境特性について検討した。平地乾燥常緑林の地質・地形・土層厚・土壌型はそれぞれ第四系砂シルト層・小起伏台地（堆積面：一部開析）・10 m 以上（乾季に上層 4～5 m 固結）・アクリソル、ポドソルなのに対し、平地乾燥落葉林ではそれぞれ頁岩、玄武岩・小起伏侵食面（一部河成段丘面）・0～3 m（乾季に上層 0.5～1 m 固結）・レプトソル、アレノソル、プリンソルと、全く違う立地環境下に成立していた。特に平地乾燥常緑林では、年によって大きく変化する雨季の降水量の影響を受け、乾季には地下水位および地表面下 4～5 m 深までの土壌硬度と土壌水分が大きく変化した。常緑樹は乾季に土層に貯留された水分を大量に消費するため、前年の雨季の降水量が少ない場合、かなり深くまでの土層の水分が減少し固結が進み、前年の雨季の降水量が多い場合は固結が進まないものと推察された。

キーワード：平地乾燥常緑林、平地乾燥落葉林、土壌型、土層厚、土壌水分、カンボジア

## 022. 湖沼－流域系から推定する東アジアの地表プロセスと環境変動（序）

柏谷健二（金沢大）・DDP 共同研究グループ（日本・モンゴリア・韓国・ロシア）

### Kenji KASHIWAYA and Darhad Drilling Project group (Japan, Mongolia, Korea, Russia): Earth-surface processes and environmental changes inferred from lake-catchment systems in East Asia: an introduction

共同研究グループは湖沼－流域系を環境モニタリングシステム（代替観測所）として利用し、歴史時代の東アジアの地表プロセスと環境変動を明らかにすることを目的として、東アジアのいくつかの地域での調査と観測を進めているが、本報告ではその概要について紹介した。紹介の内容は以下の通り：

1. 調査地概要：台湾（日月潭）、モンゴル（テルヒンツァガン・ウツギ）、中国（興凱湖）、韓国（義林池）、日本（余呉湖・北海道大沼）。2. 現在の観測湖沼－流域系：金沢・滝谷池、立山・泥鰯池、神戸・瀬池。3. 近年の観測と調査・分析結果：琵琶湖、余呉湖の湖底堆積物の物理量には明治大豪雨および伊勢湾台風が明瞭に記録されており、観測記録と対比が可能である。4. “降水量”計の確立とその歴史時代への拡張：余呉湖の堆積物の物理量を利用して“降水量計”が作成でき、その結果はソウルの降水量で支持されるものである。

キーワード：湖沼－流域系、湖底堆積物、観測記録、降水量